

27
Vol.
**Pod
Success**
Print On Demand Success

RICOH Pro Case Study 【お客様ご活用事例】

【出版/印刷業】

湧上印刷株式会社



RICOH Proをクリエイターの 出力機として使用し、生産性向上に大きく貢献。

課題

- ✓ カラーも文字も校正用途に満足できる品質を保ちたい
- ✓ 印刷スピードの高速化で、営業の校正出力待ちをなくしたい
- ✓ マシントラブルによる残業を減らしたい

解決

- 30種を超える冊子校正を担う、オフセット印刷並の印刷品質
- RICOH Pro導入により約3倍の出力速度を実現し、全体の作業工程を短縮
- オフセット印刷のほぼすべての校正を担い、ピーク時も安定して稼働

「RICOH Proは、制作部門の仲間」

企画、デザイン、ライティング、編集、出版など、30名を超えるクリエイティブ部門の校正業務をサポートする不可欠な存在。



代表取締役社長 門田 晶子 氏

■ オフセット印刷の制作と校正を担う RICOH Pro

- ✓ カラーも文字も校正用途に満足できる品質を保ちたい
- ✓ 印刷スピードの高速化で、営業の校正出力待ちをなくしたい
- ✓ マシントラブルによる残業を減らしたい

解決

- 30種を超える冊子校正を担う、オフセット印刷並の印刷品質
- RICOH Pro導入により約3倍の出力速度を実現し、全体の作業工程を短縮
- オフセット印刷のほぼすべての校正を担い、ピーク時も安定して稼働

背景と経緯

■ 2014年、創業70周年を迎える 洵上印刷

昭和19年創業の洵上印刷は、2014年に70周年を迎える。「先陣を切って新たなことに取り組むという精神は、洵上印刷のDNAです」と語る代表取締役社長、門田晶子氏。祖父、洵上晋氏は鹿児島市において活版印刷を創業。その後オフセット印刷を開始し、印刷業の土台を築いていく。また早くから出版の領域にも進出し、郷土の文化や歴史など鹿児島での情報発信にも力を入れていたという。

南九州において新しい技術、設備を先駆けて取り入れチャレンジする企業精神はオフセット輪転、DTP、CTPへと引き継がれ、洵上印刷は九州を代表する印刷会社として飛躍していく。

■ DTP化に伴い、制作製版部門のスタッフを再教育

「当社は、手作業でフィルムを扱う時代から制作製版部門スタッフが充実しており、今なお健在です。DTPの時代を迎え印刷業務自体が大きく変化していく中、多くの印刷業が人材の入れ替えを選択しました。しかし当社はスタッフにDTPトレーニングを課し、スタッフ自らの努力が現在のDTP環境を作り上げています。同時にグラフィックデザイナーの採用も行い、30名の精鋭制作チームが、洵上印刷のクリエイティブ部門を牽引しています」門田社長は、モノづくりへのこだわりのためには、制作の人材確保は譲れないと語る。

洵上印刷では出版に関わる業務を担っていたこともあり、早くから企画プランナー、ライター、カメラマン、編集者も在籍していたという。

■ 不安定になってきた制作部門の校正用プリンター



取締役 クリエイティブ本部長
武田 尚満 氏

洵上印刷はDTPのスタートにあわせ、校正用のプリンターをクリエイティブ部に導入する。「当時のプリンターはカラーの再現性が不安定で、あくまで文字校正用と考えていました。やがて、プリンターのカラー再現性が向上するにつれ、デザイナーのメイン出力機、得意先へのカラー校正用出力機として活用されるようになってきました」クリエイティブ本部長、武田尚満氏は当時を語る。

「しかしその後、出力数の増加にともない、トラブルが多発するようになりました。デザイナーの確認用、得意先への校正用ですから、ストップしてしまっは非常に困ります」

■ 得意先への校正出力機として、クリエイターの出力機として、新機種選定へ

トラブルに対するメーカーの答えは、耐久枚数を超えているとのこと。武田本部長はプリンターのタイプは問わず、洵上印刷の用途に適した出力機を比較検討しなければと考えた。

「従来機のメーカー推奨値は、月に5,000～8,000カウント。実際は10,000を超えることもあります。一度ストップしてしまうと、修理後色が変わってしまうため、その色の調整のためにさらに時間がかかってしまいます」洵上印刷にとって、制作工程で不可欠な出力機のダウンは、生産性を大きく阻害してしまう。

導入の効果

色、価格、校正品質、サポートなどを10数項目にわたり比較検討し、RICOH Pro導入を決定

クリエイティブ部と会社の品質技術室は互いに協力し合い、新たな校正出力機導入への検討がはじまる。文字品質、カラー再現性といった校正に対する品質はもちろん、耐久性、サポート体制、価格などを含め10数項目で各社の機種を比較したという。「当社には数社のPOD (Print On Demand) 機が導入されています。それぞれ用途は異なりますが、各部門に欠かせない機材です。リコーを含め各社からの提案が揃った段階で、それぞれの機種を詳細にチェックし、最高のポイントを獲得したのが、RICOH Proでした」

「RICOH Proは、特に文字の出力に秀でていました。校正はカラーも大切ですが、本番のオフセット印刷並の文字出力が重要です。この文字に関しては、どの機種よりも美しく正確に再現されていました」武田本部長は、リコーのPOD機が、校正を主とする制作工程での出力機に適していると判断した。

30種を超える冊子校正を担う、オフセット印刷並の印刷品質

社内のクリエイティブ部は外部のクリエイターとも協力し、30種を超える定期刊行物を編集発行している。市町村広報誌、観光情報誌、自社媒体のフリーペーパーなど、その種類はさまざま。発行も隔月、季刊など、一年を通じてクリエイティブ部の誰かがたえず冊子制作に関わっている。「内校、外校、印刷見本として、すべてRICOH Proで出力しています。



情報誌「リージョン」
色校正紙 (POD) と本誌 (オフセット)

特にデザイナーはレイアウトやデザインのチェックに少なくとも4～5回は出力し確認しているようです」測上印刷は、自社媒体の鹿児島ブランディング情報誌『リージョン』を季刊で出版している。創刊は2005年9月。現在、34号を数える。フリーペーパーでありながら、A4/44ページ、美しい写真と読み応えのあるコンテンツを掲載。鹿児島を発信するメディアとして支持されている。「発行部数は35,000部ほど。県内では銀行、書店、ホテル、コンビニなどに設置いただいでいて、東京都の鹿児島アンテナショップなど県外への設置も増えています。RICOH Proは、校正出力に活躍中です。文字も画像もオフセット印刷並のクオリティですから、安心して校正チェックができています」門田社長は、測上印刷の顔になりつつある『リージョン』の成長に期待していると語る。

RICOH Pro導入により約3倍の出力速度を実現し、全体の作業工程を短縮

測上印刷ではRICOH Proをクリエイターの出力機としてとらえ、校正用途に特化して使用している。

「校正用出力機に求める条件は、以下の3点です。

- ・安定して稼働すること
- ・カラー再現性が安定していること
- ・オフセット印刷に近い刷り色を出せること

この条件をRICOH Proは満たしました。しかもRIPが高速化されていて、出力速度はこれまでの3倍くらいに感じられます。全体の作業短縮に貢献していることは間違いありません」と、武田本部長は語る。

オフセット印刷のほぼすべての校正を担い、ピーク時も安定して稼働

定期刊行物以外にも、パンフレットやポスターなど、さまざまな商業印刷を受注している測上印刷では、オフセット印刷のほぼすべての校正をRICOH Proが担っている。導入以前は、ピーク時に営業の校正出力待ちで行列ができることもあったというが、安定した稼働がつづく現在は、出力待ちはほとんど見られなくなったという。

今後の展望

70周年記念プロジェクトを立上げ、測上印刷のブランドを強化

「2014年は創業70周年です。社員のいろいろなアイデアを活かし、次の方向性をつくりながらブランドの強化を図ることが、私の役割。スローガンである『よるこび 伝わる モノづくり』の下、記念プロジェクトの成功を通して私たちが関わるすべての皆さんに、よるこびが伝わる仕事を目指していきます」

ゼロからモノづくりができる体制と企画を生み出すスタッフこそ、測上印刷の強みだと門田社長は語ってくれた。

【現場から見た RICOH Pro】

得意先への校正出しにはもちろん、レイアウトデザイン確認の出力に。
RICOH Proは、クリエイティブ部の頼れるマシンです。

制作現場の要求は、 安定稼働とカラー再現性とサービス体制



クリエイティブ部 画像処理担当
新田 博志 氏

「既存設備は機械的なトラブルが多くなっていました。ストップする度に定着ドラムなどを交換したりすると、それまで時間をかけて合わせた色が出なくなるわけで、最初からやり直しになってしまいます。これがつらい」
クリエイティブ部画像処理担当の新田博志氏は、制作現場の切実な思いを語る。

「RICOH Proが導入され稼働も

カラー再現も安定しましたが、PDFで出力したときの透明効果や特殊な乗せの再現性の高さも、よくなった点でしょう」

よく使う用紙のコート系シナールと、ニューV マット本紙を使用でき、校正の精度も向上

校正出力にはインクジェットプリンターも使っているが、用紙が限定されるため、導入後はRICOH Proの出番が多くなったという。使用頻度の高い用紙は、コート系シナールと、ニューVマット。多様な用紙を使う測上印刷では、複数の用紙をセットできるRICOH Proの給紙トレイが使いやすいそうだ。

得意先からの赤文字入り校正紙を スキャナで取り込み、作業を効率化



クリエイティブ部 デザイナー
高崎 和哉 氏

クリエイティブ部デザイナーの高崎和哉氏は、スキャナーを有効活用している。

「得意先がチェックした赤文字入りの校正紙は共有したいので、RICOH Proのスキャナーで取り込みPDFにして、遠方のデザイン会社へ送ったり、出力して手元で修正したりしています。またテキスト原稿をスキャンし、OCRにかけ

てテキストデータを読み取ることも増えました」

夜中までかかっていた150ページ 商品カタログの校正出力が、短時間で終了

「毎年受注しているA4カラーの150ページほどの商品カタログがありますが、その校正出力には、これまで夜中までかかるのが普通でした。RICOH Proは印刷速度もRIPも速いため、短時間で出力できます。これまでの3分の1くらいに短縮でき、助かっています」



■商号	測上印刷株式会社
■本社	〒891-0122 鹿児島県鹿児島市南栄3-1-6
■資本金	3,000万円
■創業	1944年(昭和19年)
■従業員数	160名
■設備	RICOH Pro C651EX

■主な得意先(順不同、敬称略)

鹿児島県内自治体及び関係団体、鹿児島県農業協同組合各連合会、鹿児島商工会議所、株式会社南日本放送、株式会社鹿児島放送、鹿児島テレビ放送株式会社、株式会社鹿児島銀行、株式会社南日本銀行、鹿児島興業信用組合、鹿児島大学、鹿児島国際大学、株式会社山形屋、株式会社タイヨー、鹿児島空港ビルディング株式会社など

■主な印刷物/事業

市町村史、社史、郷土誌、地域情報誌、パンフレット、ポスター、カレンダー、チラシ、ハガキ、パッケージ、ビジネスフォーム各種、証券、証書、単伝票など
出版、商業印刷、事務用印刷、企画デザイン、市場調査、ホームページ制作、ビデオ制作、ソフト開発・販売など

■ホームページ

www.fuchigami.net/

RICOH
imagine. change.

株式会社 リコー

〒143-8555 東京都大田区中馬込 1-3-6

<http://www.ricoh.co.jp/pp/pod/>

リコー製品に関するお問い合わせは下記のダイヤルで承っております。

リコーテクニカルコールセンター

0120-892-111

●受付時間：平日(月～金)9時～17時(祝祭日、弊社休業日を除く)
※お問い合わせの内容は対応状況の確認と対応品質の向上のため、録音・記録をさせていただきます。
※受付時間を含め、記載のサービス内容は予告無く変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。
<http://www.ricoh.co.jp/contact/>
■リコーにご提供いただいたお客様の個人情報の取り扱い方針については、当社ホームページでご確認いただけます。

このカタログはRICOH Pro Cシリーズで印刷しています。

●お問い合わせ・ご用命は・・・

このカタログの記載内容は、2016年2月現在のものです。

1401S-1602<34211648>3/P